

1. あなたはあなたの神、主を愛し、いつも、主の戒めと、おきてと、定めと、命令とを守りなさい。
2. きょう、知りなさい。私が語るのは、あなたがたの子どもたちにはではない。彼らはあなたがたの神、主の訓練、主の偉大さ、その力強い御手、伸べられた腕、そのしるしとみわざを経験も、目撃もしなかった。
3. これらはエジプトで、エジプトの王パロとその全土に対してなされたこと、
4. また、エジプトの軍勢とその馬と戦車とに対してなされたことである。——彼らがあなたがたのあとを追って来たとき、葦の海の水を彼らの上にあふれさせ、主はこれを滅ぼして、今日に至っている。——
5. また、あなたがたがこの所に来るまで、荒野であなたがたのためになされたこと、
6. また、ルベンの子エリアブの子であるダタンとアビラムに対してなされたことである。イスラエルのすべての人々のただ中で、地はその口を明け、彼らとその家族、その天幕、また彼らにつくすべての生き物をのみこんだ。
7. これら主がなされた偉大なみわざのすべてをその目で見たと、あなたがたである。
8. あなたがたは、私が、きょう、あなたに命じるすべての命令を守りなさい。そうすれば、あなたがたは、強くなり、あなたがたが、渡って行って、所有しようとしている地を所有することができ、
9. また、主があなたがたの先祖たちに誓って、彼らとその子孫に与えられた地、乳と蜜の流れる国で、長生きすることができる。
10. なぜなら、あなたが、はいつて行って、所有しようとしている地は、あなたがたが出て来たエジプトの地のようではないからである。あそこでは、野菜畑のように、自分で種を蒔き、自分の力で水をやらなければならなかった。
11. しかし、あなたがたが、渡って行って、所有しようとしている地は、山と谷の地であり、天の雨で潤っている。
12. そこはあなたの神、主が求められる地で、年の初めから年の終わりまで、あなたの神、主が、絶えずその上に目を留めておられる地である。
13. もし、私が、きょう、あなたがたに命じる命令に、あなたがたがよく聞き従って、あなたがたの神、主を愛し、心を尽くし、精神を尽くして仕えるなら、
14. 「わたしは季節にしたがって、あなたがたの地に雨、先の雨と後の雨を与えよう。あなたは、あなたの穀物と新しいぶどう酒と油を集めよう。
15. また、わたしは、あなたの家畜のため野に草を与えよう。あなたは食べて満ち足りよう。」
16. 気をつけなさい。あなたがたの心が迷い、横道にそれて、ほかの神々に仕え、それを拝むことのないように。
17. 主の怒りがあなたがたに向かって燃え上がり、主が天を閉ざされないように。そうすると、雨は降らず、地はその産物を出さず、あなたがたは、主が与えようとしておられるその良い地から、すぐに滅び去ってしまうおう。
18. あなたがたは、私のこのことばを心とたましいに刻みつけ、それをしるしとして手に結びつけ、記章として額の上に置きなさい。
19. それをあなたがたの子どもたちに教えなさい。あなたが家にすわっているときも、道を歩くときも、寝るときも、起きるときも、それを唱えるように。
20. これをあなたの家の門柱と門に書きしるしなさい。

21. それは、主があなたがたの先祖たちに、与えると誓われた地で、あなたがたの日数と、あなたがたの子孫の日数が、天が地をおおう日数のように長くなるためである。
22. もし、あなたがたが、私の命じるこのすべての命令を忠実に守り行ない、あなたがたの神、主を愛して、主のすべての道に歩み、主にすがらば、
23. 主はこれらの国々をことごとくあなたがたの前から追い払い、あなたがたは、自分たちよりも大きくて強い国々を占領することができる。
24. あなたがたが足の裏で踏む所は、ことごとくあなたがたのものとなる。あなたがたの領土は荒野からレバノンまで、あの川、ユーフラテス川から西の海までとなる。
25. だれひとりとして、あなたがたの前に立ちはだかる者はいない。あなたがたの神、主は、あなたがたに約束されたとおりに、あなたがたが足を踏み入れる地の全面に、あなたがたに対するおびえと恐れを臨ませられる。
26. 見よ。私は、きょう、あなたがたの前に、祝福とのろいを置く。
27. もし、私が、きょう、あなたがたに命じる、あなたがたの神、主の命令に聞き従うなら、祝福を、
28. もし、あなたがたの神、主の命令に聞き従わず、私が、きょう、あなたがたに命じる道から離れ、あなたがたの知らなかったほかの神々に従って行くなら、のろいを与える。
29. あなたが、はいつて行って、所有しようとしている地に、あなたの神、主があなたを導き入れたなら、あなたはゲリジム山には祝福を、エバル山にはのろいを置かなければならない。
30. それらの山は、ヨルダンの向こう、日の入るほうの、アラバに住むカナン人の地にあり、ギルガルの前方、モレの樫の木付近にあるではないか。
31. あなたがたは、ヨルダンを渡り、あなたがたの神、主があなたがたに与えようとしておられる地にはいつて、それを所有しようとしている。あなたがたがそこを所有し、そこに住みつくとき、
32. 私がきょう、あなたがたの前に与えるすべてのおきてと定めを守り行なわなければならない。

## 説教

申命記 11 章はこれまでの締め括りです。12 章以降で細則を教える前に、これまでの教えを今一度モーセが確認していく場面です。

「あなたはあなたの神、主を愛し、いつも、主の戒めと、おきてと、定めと、命令とを守りなさい。」(1) 前の章でも教えられたように、「主を愛する」よう命じます。具体的には、主の「戒めと、おきてと、定めと、命令」を守るよう教えられます。守るべき主の教えが、たたみかけるように、(ここだけ) 四つも立て続けに列挙されていて、たとえ何があっても、どんなにしても、主の教えを守るのだと強調されます。

「きょう、知りなさい。私が語るのは、あなたがたの子どもたちにではない。」(2) 続く 2 節では、主を愛し主の命令を守るよう教えているのは、彼らの子どもたちに教えているのではなく、四十年前の失敗を目の当たりにし、四十年間荒野を生き抜いてきた第二世代に対して教えているのだとモーセは言います。彼らのうち最年長はおよそ六十歳になりますが、第三世代とは違って彼らは「主の偉大さ」「主の訓練」を目の当たりにしてきました。神が、エジプトの軍を滅ぼしてくださったこと、荒野でイスラエルを養い、助け、守ってくださったこと、神への反逆を扇動するダタンとその一味にさばきを下して滅ぼされたことを目撃しました。これらはすべて「力強い御手」による主の恵みであり、同時に「主の訓練」でありました。すなわち、神の愛に答えて、どのような状況にあっても「あ

あなたの神、主を愛し、いつも、主の戒めと、おきてと、定めと、命令とを守る」よう教育する「主の訓練」であったのです。それゆえ、この四十年間、これほど神に愛され、「主の偉大さ」を実際に目撃し、懇ろな「主の訓練」を受けてきたのですから、その結論としてモーセは命じます。「あなたがたは、私が、きょう、あなたに命じるすべての命令を守りなさい。」(8)

そして、今度は、主の命令を守るならば神がどのような祝福を与えてくださるのかを教えます。神に愛されているのだからその愛に応えなさいと言うにとどまらず、主の戒めを守ればどのような祝福があるかを教えます。先には、主の戒めは、「あなたのしあわせのため」、すなわち「すばらしい人生を生きるため」に与えられたものだと解説がなされていました(10:13)。ここでは、具体的にどのように「しあわせ」になるのかを説くことで、だからこそその結論として主の戒めを守りなさいとモーセは教えるのです。主の戒めを守るとどのような祝福をいただけるのでしょうか。それは「そうすれば、あなたがたは、強くなり、あなたがたが、渡って行って、所有しようとしている地を所有することができる」という祝福です(8)。そして、その「乳と蜜の流れる」肥沃な地カナンで「長生きすることができる」という祝福でした(9)。

カナンの地がどんなにすばらしい所か、エジプトと比較されていますが、エジプトでは「野菜畑のように、自分で種を蒔き、自分の力で水をやらなければならなかった」(10)と言われます。「力」という言葉はもともと「足」という意味があります。エジプトでは、中央アフリカの雪解け水であるナイル川が豊かな水を供給しましたが、それをそれぞれの農地に運ぶために「足」が活躍します。水車やシャドーフと呼ばれる天秤棒を使って、川から大きな水路、さらには小さな水路へと水が供給されました。そして、水の量が多すぎれば土を盛って供給を減らし、少なすぎると障害物を取り除けて水の流れをよくしました。こうして、モーセの言うように、エジプトは「野菜畑のよう」であり、莫大な収穫を生み出したものの、絶えざる人間の手入れを必要としたのです。

これに対して、これから入って行くカナンの地は、人の手を必要としない「天の雨で潤っている」所(11)です。「そこはあなたの神、主が求められる地で、年の初めから年の終わりまで、あなたの神、主が、絶えずその上に目を留めておられる地である。」(12)「求める」という言葉は「ケアする、配慮する、幸福をもたらす、問う、要求する」の意味で、神が一年中カナンの地に「目を配り」、特別に「配慮してくださっている」土地だと言うのです。具体的にどのように「配慮してくださっている」かと言えば、「季節にしたがって」規則正しく雨を降らせ、「あなたがたの地に雨、先の雨と後の雨を与えよう」と神は約束なさいます。エジプトには大量の雪解け水という自然の恩恵がありましたが、パレスチナにはそれがありません。雨が降った時だけ流れる「ワジ」と呼ばれるパレスチナの川はよく知られていますが、基本的に乾燥地帯で水は豊かではありません。それでも、まさに規則正しく「季節にしたがって」まさに「天の雨」によって肥沃をもたらしてくださるというのです。パレスチナでは秋冬の「雨期」と春夏の「乾期」とに明確に分かれます。その合間に、10月から11月にかけては「先の雨(ヨレー)」と呼ばれる秋の豪雨が、3月から4月には「後の雨(マルシユ)」と呼ばれる春の嵐が、それぞれ訪れます。そして、秋に降る「先の雨」は夏の日照りを打ち破り、耕作を可能にし、「穀物と新しいぶどう酒と油」をもたらします(14)。一方、春に来る「後の雨」は、乾期である夏の前の最後の雨として全地に緑をもたらすことで「家畜のため野に草を与え」ました(15)。勿論、これら以外にも雨は降りましたが、これら「先の雨」と「後の雨」はイスラエルがカナンで幸せに生きていく上で最も大切なものでした。雨というものは、ノアの洪水のように降りすぎても困るものですが、エリヤの時の干ばつのように降らなすぎても困ります。人はまさに神の神妙な御配慮によって生かされているのですが、約束の地カナンではそれが実によくわかるというのです。そこは、一年中、絶えず、「目を留めて」配慮してくださる神の「天の雨で潤って」います。そして、「乳と蜜の流れる」その地で、「あなたは食べて満ち足り」、「しあわせに」「長生きすることができる」と言うのでした。

とは言え、約束の地で「しあわせに」「長生きする」ためには条件があります。それは「もし、私が、きょう、あなたがたに命じる命令に、あなたがたがよく聞き従って、あなたがたの神、主を愛し、心を尽くし、精神を尽くして仕えるなら」という条件です(13)。主の戒めを守ることは 11 章に入って既に三回目ですが(1,8)、ここでの最も重要な主題だからです。「心を尽くし、精神を尽くして」全生涯、全存在を挙げて主を愛し主に仕えるならば、神に祝福されて「しあわせに」「長生き」できます。しかし、そうではなく、他の神々に栄光を帰してそれを拝むことがあれば、「主の怒りがあなたがたに向かって燃え上がり、主が天を閉ざされ」ます。「そうなると、雨は降らず、地はその産物を出さず、あなたがたは、主が与えようとしておられるその良い地から、すぐに滅び去ってしまおう」と言うのでした(17)。

それゆえ、モーセは、主の教えを、自分の知性と人格と存在の中心である「心と魂に刻みつけ」、さらには日常に於いてよく見えるよう、「それをしるしとして手に結び付け、記章として額の上に置くよう」命じます。そして、世の人々にもよく見えるよう、「あなたの家の門柱と門に書き記し」、さらには、「それをあなたがたの子どもたちに教え」、「あなたが家にすわっているときも、道を歩くときも、寝るときも、起きるときも、それを唱えるように」と教えるのです(19-20)。ここでモーセが教えている相手は第二世代ですが、彼らが主体となって次の第三世代、第四世代にも語り継いでいくよう命じています。

「見よ。私は、きょう、あなたがたの前に、祝福とのろいを置く。」(26)これがこの章の意味する最も単純な表現です。主に従うなら主の祝福が、しかし、主に逆らうなら主の呪いが、というのです。このことは何より大切なことなので、モーセが死んでイスラエルがカナン入りを果たした後には、その中央に位置する二つの山を前にして、祝福されたゲリジム山、呪われたエバル山を見せながら、視覚教材で「祝福と呪い」を教育せよと言うのでした。ヨシュア記を見ると(8:33-35)、モーセが命じたように、契約の箱をはさんで、全イスラエルは、その長老たち、つかさたち、さばきつかさたちとともに、それに在留異国人もこの国に生まれた者も、その半分はゲリジム山の前に、あとの半分はエバル山の前に立ちます。そうして、ヨシュアは律法の書にしるされているとおりに、祝福とのろいについての律法のことばを、ことごとく読み上げます。「モーセが命じたすべてのことばの中で、ヨシュアがイスラエルの全集会、および女と子どもたち、ならびに彼らの間に来る在留異国人の前で読み上げなかったことばは、一つもなかった。」(ヨシュア 8:35) こうして、モーセの命じた主の教えを今一度読み上げて確認したのでした。

神の愛に答えて、神と人を愛し、神のすべての戒めを守り行って、祝福にあずかり、これを後の世代に語り伝えていきたいと思います。